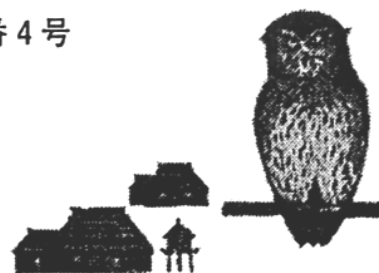


財団法人アイヌ民族博物館 北海道白老町若草町2丁目3番4号

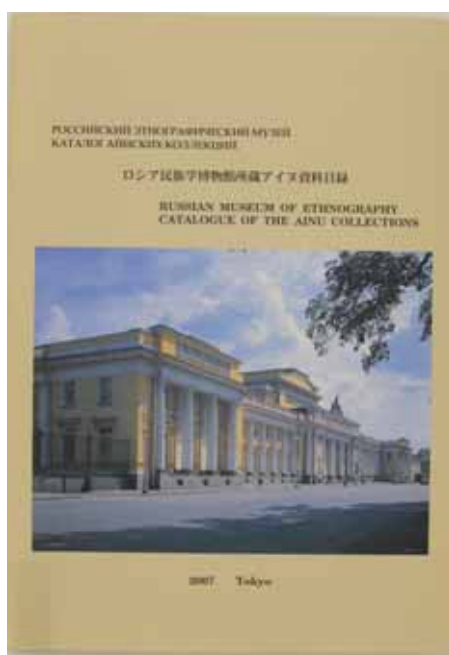
コタンメール

第38号 平成19年6月20日 発行



アシカンピソシ エク ナ (新しい本が来たよ)

『ロシア民族学博物館所蔵アイヌ資料目録』(草風館 2007)



本書は、ロシアの古都、サンクト・ペテルブルグ(※1991年までレニングラードとよばれていた、モスクワに次ぐロシア第2の都市)のロシア民族学博物館に収蔵されているアイヌ民族資料、約2,600点すべてをカラーで掲載しているほか、1900年代にポーランド人のブロンスラウ・ピウスツキやロシア科学アカデミー人類学民族学博物館員 V.N.ヴァシーリエフによって、サハリン(樺太)や北海道で撮影された写真資料、約300点も紹介しており、資料解説や資料リストは日本語・英語・ロシア語の3ヶ国語で併記されています。

国外におけるアイヌ文化財に関しては1980年代から所在調査がおこなわれており、ヨーロッパやアメリカ、ロシアなど各地の博物館に約13,500点が所蔵されていることが判明しています。その多くは19世紀から20世紀初頭にかけて北海道やサハリンで収集されたもので、収集の経緯や来歴を示すデータが付随しているものが多く、アイヌ文化財として質、量も含め、民族学的にも価値の高いものといえます。

ロシアでのアイヌ関連資料の現地調査は、千葉大学の荻原眞子教授を代表として1995~2001年までの7年間、サンクト・ペテルブルグ、オムスク、ハバロフスク、ウラジオストック、ユジノ・サハリンスクの5都市、6博物館で実施されました。中でもサンクト・ペテルブルグ市内の2つの博物館、ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館とロシア民族学博物館には約5,000点近いアイヌ関係資料が収蔵されています。

本書が紹介するロシア民族学博物館は、1902年に創設され、隣接する「ロシア美術館」とともにニコライⅡ世の勅令によってロシア皇帝アレクサンドル三世を顕彰すべく建てられた総合博物館の一つで、ロシア国内を中心に150余りの民族に関する民具、写真、絵画資料など50万点以上にもものぼる^{ぼうだい}龐大な資料が収蔵されている博物館です。(村木美幸)



ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館収蔵アイヌ資料目録 (草風館 1997)

お知らせ

『ロシア民族学博物館所蔵アイヌ資料目録』(税込18,900円)、『ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館収蔵アイヌ資料目録』(税込9,450円)は、アイヌ民族博物館ミュージアムショップ「イカラカラ」で取り扱っております。

へまた・てまな

へまた＝なに、てまな＝どのように・・・樺太方言

アイシロシ 矢につける印

アイヌの男性は誰でも、自分の作品や、持ち物に刻むマークを何種類か持っていました。イトクパ「刻み」、シロシ「しるし」などといいます。アイシロシは狩猟用の矢に刻んで、獲物を獲ったときに、誰の矢が当たったかを見分けるためのものです。また、動物は気に入った人間の矢に当たると考えられていましたので、動物にとつての目印、という意味もあったかもしれません。

当館の資料では、ネマガリダケ製の鏃(やじり)や、矢柄に刻んだものが残っています。鏃の場合は、ルムチブ「鏃の船」と呼ぶ毒を塗りつけるための凹部分に刻まれたものが多いようです。

アイシロシは、親から教わるとても大切なものですが、ときに作り変えることがあります。アイシロシを変えるときの祈り詞が残っています。B.ピウスツキという人が、1903年頃に北海道で記録したものです。文中の言葉遣いや、ピウスツキの調べた場所から考えると、沙流川流域での記録のようです。

この中で目を引くのは、シロシのことをカムイ「神」と呼んでいるところです。シロシのカムイに長く働いてもらったので、イナウ「木幣」を捧げて、神界に送り帰すという事が述べられています。これひとつ見ても、かつてのアイヌ文化で「マーク」や「神」がどのように考えられていたかを見直す大きな材料になります。

古いシロシを送ると新しいシロシを作りますが、人間の考えだけでは決められません。そこで祈りを捧げたあと実際に使ってみて、すぐに獲物があればそのシロシを使うようです。

－矢の印を変更するときの祈り－

「昔から、祖翁からもたらされたものなので、これまであなた(印)を使ってきたが、もうあまりにも時が経ったので、印の神も疲れたでしょうから、木幣とともに、神界にお帰り下さい。そのために木幣を削り、あなたに贈りますよ。これなる印の神よ。どうか気を悪くせずに、神界へお帰りになったなら、それこそが神様らしい振る舞いですよ。この祈りを聞き入れ、穏やかにお帰り下さい。」

－新しい印を作ったからの祈り－

「これなる矢の印を、新たに作って使い始めるので、これで良ければ、この矢の印を作ったすぐに、すぐにクマやシカが獲れたなら、未永くこの印を使うことにします。この祈りを聞き届けて下さい。」

※原文は『*The Collected Works of Bronislaw Pilsudski 2*』(1998)という本に収録されています。

(北原次郎太)

アイヌ語教室のご案内

○7月14日(土) 中級編2

○7月15日(日) 初級編3

講 師: 本田優子氏(札幌大学文化学部教授)

場 所: 博物館研修室(2F) 時 間: 17:30~19:00

財団法人アイヌ民族博物館

編 集: 木田瑞恵

URL: <http://www.ainu-museum.or.jp>

学芸課 TEL 0144-82-4199 FAX 0144-82-6121

E-mail: museum@ainu-museum.or.jp